

防 除 情 報

長崎県病虫害防除所長

平成20年度病虫害発生予察 防除情報第2号

ヒメトビウンカ（越冬世代）の生息量及びイネ縞葉枯ウイルスの保毒状況について

ヒメトビウンカの越冬世代において生息量が多く、イネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率も高い状況です。近年、保毒虫率が高い傾向が続いており、今後、水稲で縞葉枯病の発生が多くなることが心配されます。下記の点に留意して防除指導をお願いします。

記

1. ヒメトビウンカ（越冬世代）の生息量及びイネ縞葉枯ウイルスの保毒状況
 - (1) 平成20年3月6～21日にかけて、県内16地点の水田（1地点当たり概ね5圃場）においてヒメトビウンカの生息量調査（吹き出し法）を行った結果、10㎡当たりの虫数は28.2頭（平成11.0頭）と平成より多かった（図、表）。
 - (2) 上記調査時に採集したヒメトビウンカについてイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率調査（ラテックス凝集反応法）を行った。その結果、保毒虫率は4.0%（平成2.3%）と平成より高かった（図、表）。
2. 防除対策
 - (1) 水稲移植時はウンカ類に効果のある箱施薬剤を施用する。
 - (2) 普通期水稲作付け圃場では、第1世代幼虫のふ化期にあたる4月下旬～5月上旬までに耕起し、ヒメトビウンカの密度低減を図る。
 - (3) 育苗圃へのヒメトビウンカの飛び込みを防ぐため、イネ科雑草地や麦類圃場付近での育苗を避ける。
 - (4) 窒素過多は縞葉枯病の発生を助長するので適正な肥培管理に努める。

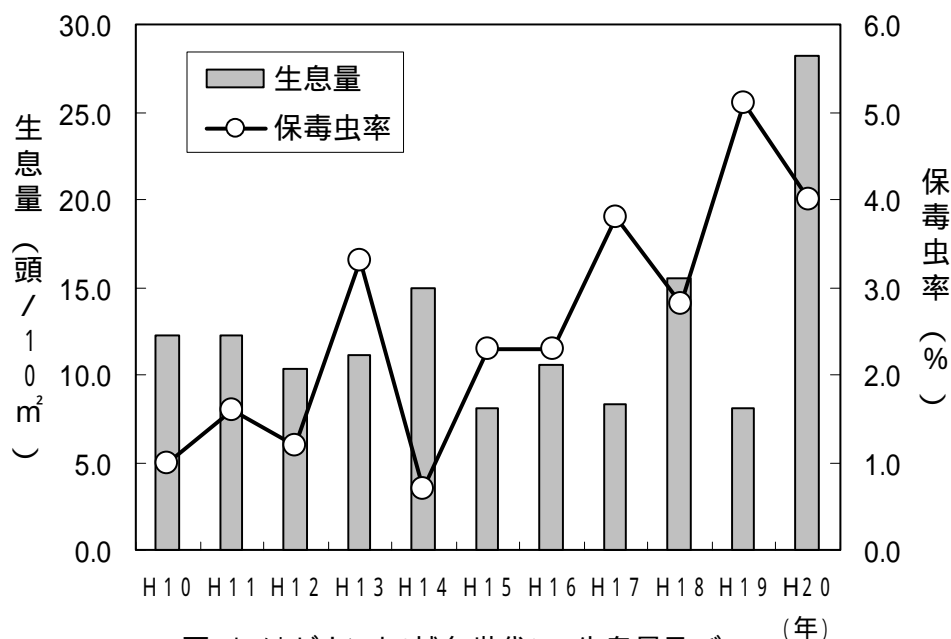


図 ヒメトビウンカ(越冬世代)の生息量及びイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の推移

表 各地点におけるヒメトビウンカ（越冬世代）の生息量及びイネ縮葉枯ウイルスの保毒虫率

調査地点	生息量 (頭 / 10m ²)	検定虫数 (頭)	保毒虫率 (%)
長崎市神浦	20.0	100	6.0
長崎市琴海戸根	164.9	200	4.5
西海市大瀬戸町多以良	41.1	190	4.7
西海市大瀬戸町雪浦	22.3	53	9.4
諫早市小野島町	29.1	200	0.0
諫早市森山町田尻	34.2	100	4.0
諫早市多良見町元釜	26.0	100	7.0
諫早市小船越町	45.0	100	5.0
大村市鈴田	204.3	150	2.7
東彼杵町三根	162.5	100	2.0
雲仙市吾妻町干拓	16.3	121	2.5
雲仙市国見町神代	9.8	98	6.1
佐世保市長畑	18.2	200	1.5
佐世保市早岐	11.2	100	2.0
松浦市志佐	2.5	58	3.4
平戸市紐差	3.6	149	8.7
県 全 体	28.2	2019	4.0
平 年 値	11.0	-	2.3

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027